

# 東名病院だより

vol.4

第16号

2004.12月発行

東名病院ホームページアドレス・Eメールアドレス

<http://www.med-junseikai.or.jp/tomei/index.html>

e-mail [tomei-hosp@med-junseikai.or.jp](mailto:tomei-hosp@med-junseikai.or.jp)

東名病院発行／〒480-1153愛知県愛知郡長久手町作田一丁目1110

TEL 0561-62-7511(代)FAX 0561-62-2773



ロウバイ

東山公園にて撮影

平成16年も残りわずかになってまいりました。皆様おかわりありませんか。本年は酷暑、台風、地震、暖冬など例年とは異なった季節感が続き、地球温暖化のあらわれかと危惧されます。

私ども東名病院では手術をさせて頂く患者さまが少しずつ増加して参りました。本年10月までの集計を報告させていただきました。今後とも皆様の信頼期待にこたえられる様、職員一同、努力していきたいと思っています。

「愛」は、相手の幸せや発展のためにつくす、まじりけの無いあたたかい気持ちと定義されています。病院の中でも患者さまに対する愛、職員相互に対する愛が必要です。東名病院が愛に満ちた、愛にあふれた病院になるように、念じています。

平成17年が、皆様にとって良い年になります様、お祈りしています。

平成12年4月に当院の院長に就任して5年を経過しようとしています。当院で対応可能な患者さんには、積極的に手術をさせて頂く方針でやってきました。この5年間の経過について、報告させていただきます。

最近の当院における手術数の推移を図1にしめました。

年々手術の総数は増加し、平成16年は10月末で100例に達しました。(図1)

現在当院では脳神経外科を中心とした頭部、頸部、腰部の手術に力を入れています。脳腫瘍などの長時間手術を要する方の場合には、大きな病院に紹介する場合がありますが、頭蓋内血腫、脳出血などにたいしては積極的に手術を施行しています。頸椎、腰椎等の脊椎疾患に対する手術も、愛知医大脳神経外科の全面的な連携、協力により手術患者さんは次第に増加しています。(図2)

胸部手術は、自然気胸と多汗症を中心に、名古屋大学呼吸器外科、愛知医大皮膚科多汗症外来の先生方との共同研究として、新しい手術法の確立を目指しています。これらの手術では短期入院、早期社会復帰を目指し、多くの方は1-2泊の入院で退院して頂いています。(図3)

腹部手術は、胃、胆嚢をはじめとして、イレウス、ヘルニアなど多種の手術を行っています。高度の貧血と下血を症状として来院された小腸の腫瘍の方も2例ありました。これは大変頻度の少ない病変で診断が難しいものです。(図4)

図 1

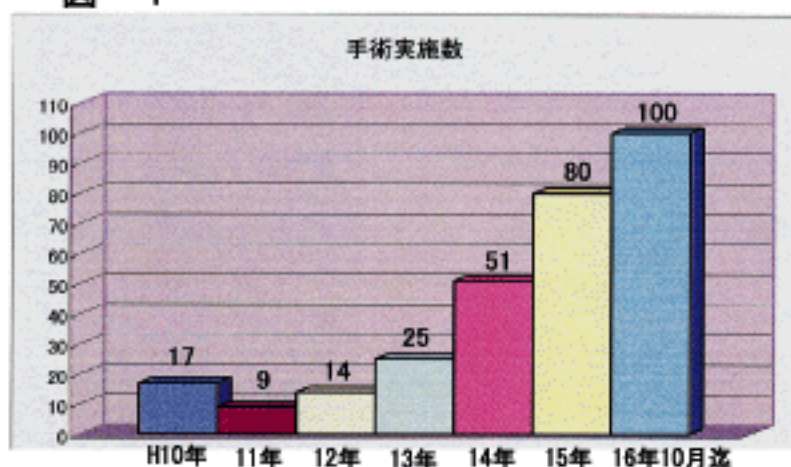


図 2

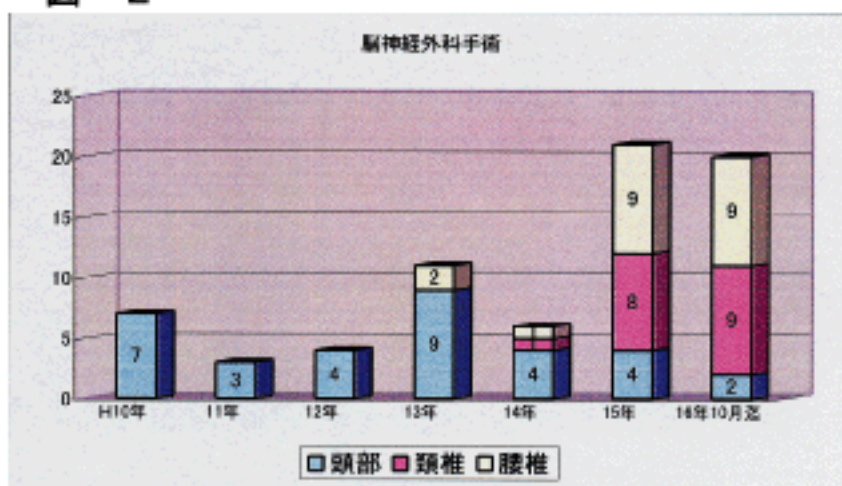
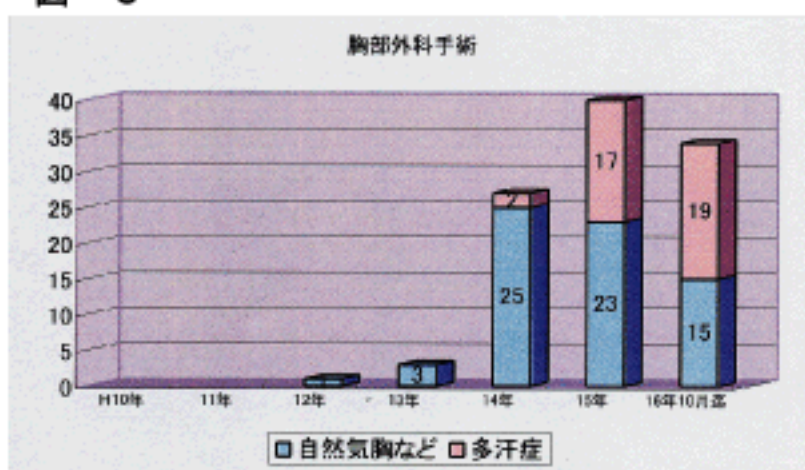


図 3



その他の手術としては、ペースメーカー植え込み術（7例）、頸動脈内膜切除（3例）などを行っていますが、最近では下肢静脈瘤手術、動脈閉塞症に対する手術が行われて増加してきています。

（図5）

当院の設備、規模、体制には制限があり、扱う疾患には自ずと限りはありますが、当院で行う手術が、診断、管理的レベルを含めて、医学的にも誇りうる内容となるべく今後とも努力をしていきたいと思っています。

写真に小腸の腫瘍のために高度の貧血をきたした方の小腸造影をしめました。手術により軽快されています。

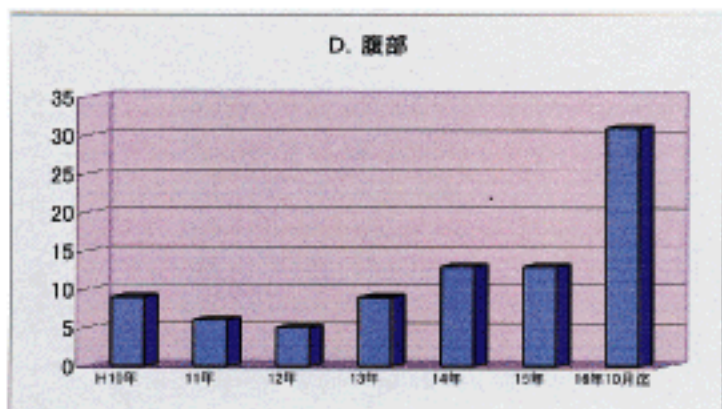
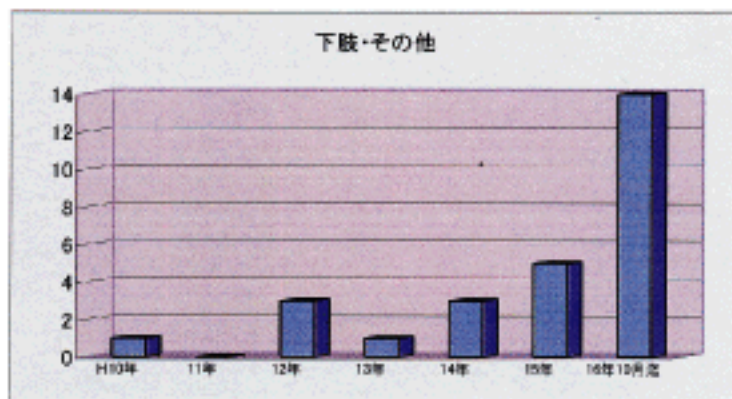
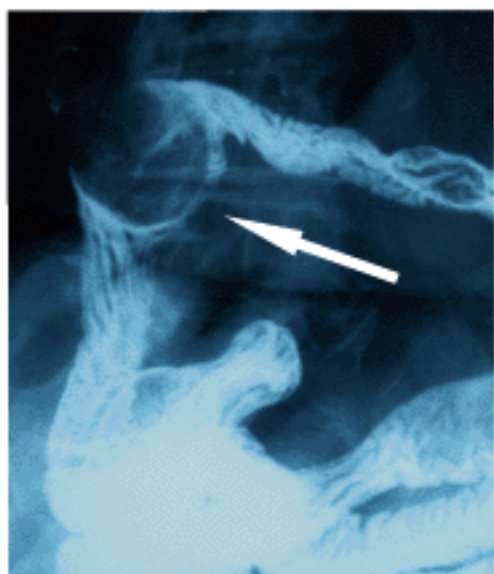


図 5



小腸の間葉系腫瘍 90才



小腸の癌 71才



写真のご紹介

今回も大変美しい写真を頂きました。どうもありがとうございます。



撮影 匿名希望 様

## 栄養士による給される『食事』

管理栄養士 篠崎 庸子

皆様のうちで、過去に入院を体験された方はどの位いらっしゃるのでしょうか？  
かつて、病院給食に対するイメージは『まずい・味がない』『病院食だから仕方ない』と言ったものでした。

病院での給食は、個々の疾患の早期治癒を目的として作成されるものでありますがそれは、患者様が『食べる事』によって得られた結果であると思います。そのためには、喫食される方（患者様）にとって家庭と同じように食事が『楽しみ』のある内容でなくてはならないと考えています。

当院では、季節感（素材・メニュー）を持たせる事、美味しい事、家庭のメニューと違いすぎないこと（特殊な料理・調理でない）を常に心がけたメニュー内容となっております。

糖尿病食等、一部の治療食を除き、その患者様が退院された後に、特殊な素材を用いなければ食事療法が成り立たないといった食材は、出来るだけ使用しない内容となっております。

病院給食は治療食ではあるものの、家庭でも実践可能な内容でなければなりません。『給食』が『与えられる食事』の意味を脱した形で提供される日が訪れるに違いありません。これらの基本的な考えの基に、給食の献立を考えていきたいと考えております。

また『食』に関する一番身近な相談者として、継続的な食事療法が必要な場合以外にも食事に関してお尋ねになりたい事がある場合には、随時、必要・希望に応じて、栄養指導・相談を実施しております。

特に、生活習慣病においては、継続的な食事管理、長期的な食環境調整が必要であり、退院後にも外来受診時、必要に応じて継続的指導を行っております。外来のみの患者様におかれましても、食事に関して栄養士の指導・相談を御希望される方は、診察時に、医師、又は看護師にご相談ください。